
すれ違ひな 2 人

金色夜叉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すれ違いな2人

【NZコード】

N8769C

【作者名】

金色夜叉

【あらすじ】

お互いに好きなのに何だか、言い出せない2人の日常を書いたラブコメディ！2人は無事に結ばれるのか？

第1話（前書き）

あまり文章力には自信がありません。色々勉強していくつもりです！ 読んでいただけたら嬉しいです。

第1話

俺は、御堂恵みとうけいわち一みんなは、俺の事をケイと呼ぶ。

普通の高校一年生だ。学校での素行はあまり良いほうではない。喧嘩にだつて自信がある。学校には1人を除いて敵はない。そう1人をのぞいては…

まあ俺の紹介はこのくらいにしてここから物語の始まりってことによろしく。

「ジリリリリリ」田覚ましの音が耳をつく、

「あーマジウザイ」眠そうに時計を見るケイはとても、不快な朝を迎えていた。

「あーマジ眠い今日は学校サボろうかな」眠いのも当たり前昨日の夜友達と遊び家に帰ったの朝の5時、そして今が7時

「ショーゲねえ眠いものは眠い！今日はサボろ」

ちなみに俺は1人暮らしのためサボっても親には何も言われない。別に両親が居ないわけではなく2人とも海外で仕事をしているのだ。また眠りについたケイであった。

数分後

「ピンポーン」

つたく誰だよウルさいなー！いや待てこの時間に来るのはアイツしか居ない…

ガチャ！玄関の鍵が開いた音がする。そして次に俺の部屋のドアが開く。

「もーいい加減いつまでも寝てるの？早く準備しないと学校に遅れるよ！」と言いながら部屋に、来たのは幼なじみの田野ミカ（ひのみか）だ。

「コイツが俺の学校での唯一の敵というか、俺はコイツにだけは、頭が上がらない。つとまあコイツの紹介はまた今度するとして、まあなんだかんだで、俺はコイツのことが好きなのである!…とか軽い紹介をしている間に布団は剥がされていたのだつた。

「ほら何ブツブツ一人で言つてんの?早く着替えてよ!私は朝ご飯の支度してくるから」とミカが言つ。

逆らうと後が怖いので俺はしぶしぶと着替え始めた。キッチンに行くと「ヒーヒーの良い匂いが漂つていた。今日の朝飯はトースト、コーンヒー目玉焼き、サラダだ!ミカが朝飯を作ってくれるようになり、なつてもうすぐ1年がたつ高校に入つたばかりのころ両親が海外に行くことになつた。と言つのをミカに話したら、

「しゃあ私がご飯作つたり洗濯とかしてあげる!」つと言ひ出したのだ。俺の両親も

「ミカちゃんが来てくれるなら安心ね」とか言い簡単に合い鍵を渡したのである。そうこうしている内に朝飯が出来上がつたようだ。

「「いただきます!」「2人で朝飯を食べているとミカが

「もうすぐ私達がこづやつて朝ご飯を食べるようになつてからもうすぐ1年だよね」俺はただ

「そうだな」と言ひ朝飯食べる。そんな話をしていると

「あつもうこんな時間だ早く、かたずけないと」ミカが慌てるそう言いながらテキパキとかたずけて

「ほら早く行くよ!」と手を引かれながら玄関へ行き鍵をしめて学校へ行く。いつもと変わらない穏やかな1日。

第2話（前書き）

主人公達のプロフィールを紹介します！みとうけいじゅ一御堂恵一

身長 174cm

体重 67kg

髪型 短髪（茶）

かなりガラが悪い！ヤンキーだが成績はかなり良い。スポーツ万能。

日野ミカ（ひのみか）

身長 162cm

体重？kg

髪型セミロング（黒）

学校で五本指に入る美少女！成績は普通スポーツ万能！
とまあこんな感じです。今回でとりあえずは2人の紹介が終わりました。次から本格的に物語のスタートです！

第2話

私の名前は、日野ミカどにでもいる普通の高校生。そんな私には、少し普通の高校生とは、違う田課がある。それは、毎朝ある人に朝ご飯を作つてあげること。

「ジリリリリリ」つと田覚ましの音が静かな部屋に響く。時間は朝6時。

「さーて今日もアイツに朝ご飯を作つてやるか！」つと言ひグツと背伸びをする、窓を開け外の空氣を吸うミカはこの朝の空氣が大好きである。

まだ、少し目の覚めでいない目をこすりながら自分の部屋を出て洗面台へと向かつた。そして歯を磨き、シャワーを浴びるこれが大体のミカの朝だ。シャワーを浴び髪を乾かしセツトをして制服に着替える。今時の高校生といえば化粧はしているのだが、ミカはほとんど化粧はしない。それでも学校では五本指に入る美少女だ。

「あつもうこんな時間アイツを起に行かなくつちゃ一・ほつとくと寝過ぎまで起きないから」と言い家をでる。

お気づきのとうりアイツとは、ケイのことである！そしてケイの家に行く途中に、ミカは考えごとをしていた。『あーいつにればアイツ私の気持ちに気付いてくれるのかな私って魅力ないのかなもうアイツと出会つて10年以上たつのに全然そんな素振り見せないし』などと考へてるうちにケイの家に着いた

「そんなんの考へても仕方がないか！私は私なりに頑張ればいいし！さーてあの遅刻魔を起こしに行きますか！」と気合を入れて玄関のドアを開ける。今日の朝ご飯は何にしようかなーでもホントに毎日「」飯を作るつて大変なんだよね。お母さんのこと本気で尊敬するよ。さー頑張ろうつと。

第3話（前書き）

今回はケイの悪友の登場です！

第3話

季節は6月、ケイとミカは学校へ行っていた。

「あーマジなんでこんなに雨ぱっかりなんだよ」

「しようがないでしょ！今は梅雨なんだからー」と駄々をこねるケイに言いツカツカと雨の中を歩くミカ。

そして2人は学校に着いた。

げた箱で靴をはきかえていると後ろから

「おっはよー！今日も2人ともラブラブだねえ！」と朝からテンションの高いコイツは俺のダチの中谷海なかやまかいコイツと俺は中学からの仲だ。コイツとは昔から一人でいろいろやつてきた。それはまた別の話で。

「つーか毎朝、同じことばっか言つてあきねーの？」

と冷たくあしかつ。

「あーまたそう言つ」とを」とカイが言つ。

「どうこうことだよ！」とケイが少し動搖しながらいり。

「まーいろいろだつてことだよ。まあそんなこと、どうでもいいから、さつさと教室にいくぞ。」とカイが言い3人は教室に向かう。教室に着き3人は自分の席へと座つた。しばらくしていると、カイがケイに近づいた。

「あんな、カイ明日いつも行つてるパチンコ屋がイベントなんだよ。さつきはミカちゃんが居たから言わなかつたけど、どうする？？」とケイに聞く。

「行くに決まってるだろ！ミカには絶対言つなよ」

時間は過ぎ放課後。ケイはミカと一緒に帰つていた。

「てかさーアンタ、カイ君とまた何か悪巧みしてたでしょ？」とミカがケイを目を細めて見ながら言った。

「ななな何言つてんだ。」

「てかさー何隠しても私にはお見通しみたいな！」

さーて2人は明日の朝無事にパチンコにいけるのでしょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8769c/>

すれ違いな2人

2010年12月31日15時16分発行